

2 気になる状態像と考えられる対応（Q & A）

Q 1 聞き取りが苦手な子どもには、どう対応したらよいでしょうか

子どもの状態

聞いたことをすぐに忘れて、何度も聞き返す。
集団の中で言葉の指示や注意を理解できない。
少し複雑な会話や頼んだ用事の内容を理解するのが困難である。

話を聞くとき、注意の集中・持続時間が短く、最後まで話を聞けない。

状態の理解のポイント

- ・ 聞いた言葉を記憶することが難しい。
- ・ 語彙が少なく、話の内容を理解できない。
- ・ 周りの刺激が気になって、話に注意を集中できない。
- ・ 自分に話し掛けられているという意識・自覚がない。

考えられる対応

指示は、具体的な言葉で短くはっきりと伝える。

指示内容を複数でなく一つに絞り、その一つが遂行できてから次の指示を出す。

絵や写真カード、文字カードを使って視覚的に情報を補い、内容理解を助ける。(図76)

経験したことを絵に描いたり、写真を見て話をしたりして、内容理解の力を高める。

担任の言葉以外の聴覚刺激あるいは視覚刺激の何に反応しているのかを探り、それを除去する。

座席の位置を工夫するなど、他からの刺激に反応しにくい環境を工夫する。

話す前に名前を呼ぶ、目を合わせる、肩に手を掛けるなどして、注意を引き付けてから話す。(図77)



図76 視覚的な情報の補充

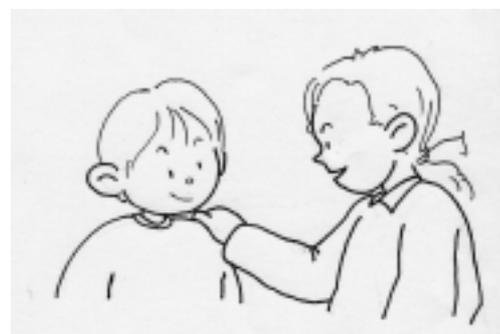


図77 注意の引き付け

家庭との連携

お使いや電話取り次ぎの際に、メモをとるように言葉掛けし、習慣化を図る。(図78)

遊びやお手伝いなどの具体的な活動を通して、理解言語の数を増やす。



図78 メモを活用した聞き取り